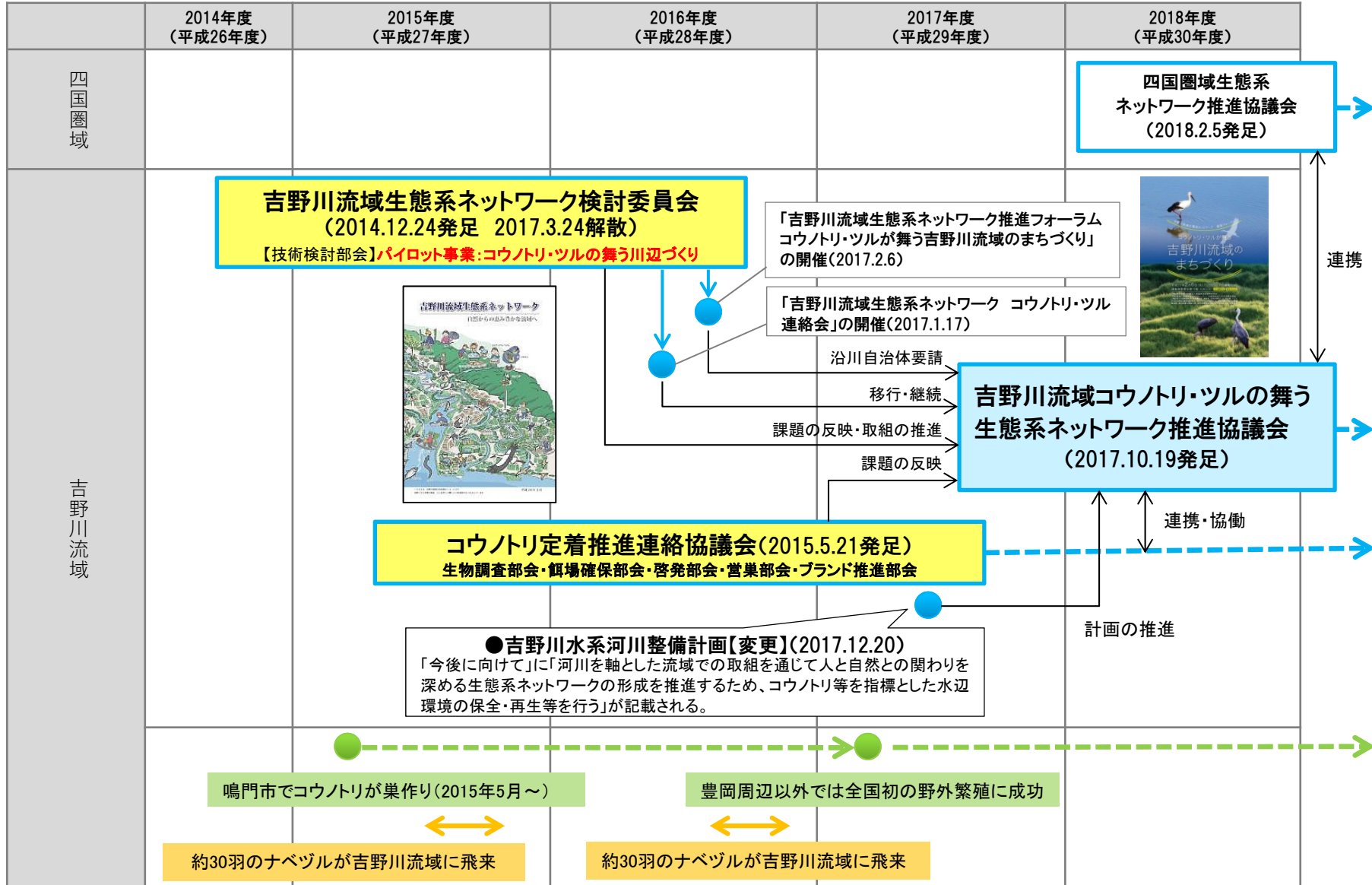


徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワークへの発展移行

吉野川流域での取組の経緯

吉野川流域では、コウノトリ・ツル類の飛来・生息を契機として、生息環境の保全や地域振興への活用に向けた取組が進められ、2017年10月19日に「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」が設立されました。



吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

協議会を2017年10月に設立し、2019年3月に「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク全体構想」を策定・公表しました。また、キャッチコピーを公募し、2019年5月に「ツル・コウノトリと未来育む阿波の国」を選定しました。

協議会の下に、2018年11月に「鳴門地区生息環境づくりワーキング」が設置され、旧吉野川での自然再生事業において創出する環境や管理・活用等について検討を進めてきました。また、2019年9月に「鳴門地区地域・人づくりワーキング」が設置され、鳴門地区でのコウノトリを活かした魅力的な地域づくりや人材育成等の具体的な事業の推進について検討を進めてきました。

『吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会』

- 開催回数：年1回程度
- 構成：学識者／市町長／行政／関係団体等 計30名程度
- 主な役割：流域全体構想の策定・推進・更新

『専門部会』

- 開催頻度：必要に応じて開催 ※常設ではない
- 構成：分野別専門家 各5～6名程度
- 主な役割：地域ワーキングでの検討及び事業実施における専門的知見からの支援
- 主な検討事項

『生息環境づくり専門部会』

- ・吉野川流域におけるコウノトリ・ツル類の定着に関すること
- ・吉野川流域の堤内・堤外における生態系ネットワーク形成の効果的推進に関すること

『地域・人づくり専門部会』

- ・吉野川流域におけるコウノトリ・ツル類が舞う魅力的な地域づくりや人材養成に関すること
- ・吉野川流域の堤内・堤外における生態系ネットワーク形成の効果的推進に関すること

支援

『地域ワーキング』

事業の実施にあたって、地域の関係主体が参加して具体的な取組を検討、推進

鳴門地区生息環境づくり ワーキング

- ・旧吉野川での自然再生事業における環境創出、維持管理等について検討事業実施計画の策定

鳴門地区地域・人づくり ワーキング

- ・鳴門市における魅力的な地域づくりや人材育成等の具体的な事業の推進や地域の課題について検討

吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク全体構想

吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワークに参画する様々な主体や地域の方々が、取組の目的・目標を共有し、吉野川流域の様々な場所で、連携・協働による取組を効果的に進めるために、全体構想を2019年3月に策定しました。

吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク形成の目的

- 1 コウノトリ・ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生による生態系ネットワークの形成
- 2 コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現



到達目標

- ◆ コウノトリ・ツル類がくらすしていることを日常の光景とし、これらが舞い降りる川や田んぼは、カエル・魚・虫などの生物多様性が豊かで、良好な水辺の景観が広がっている場所にする。
- ◆ 川と里での生態系ネットワークの取組を、山や海へも広げ、各地域特有の自然環境や歴史・文化・伝統を最大限に守り活かした産業と、落ち着いた暮らしが営まれているようにする。
- ◆ 地域に住み、働き、訪れる人々が、自然とのつながり・人とのつながりを実感できる、吉野川流域独自の魅力的で持続性のある地域づくりを展開する。

吉野川流域での短期目標（～2020年）に向けた取組状況

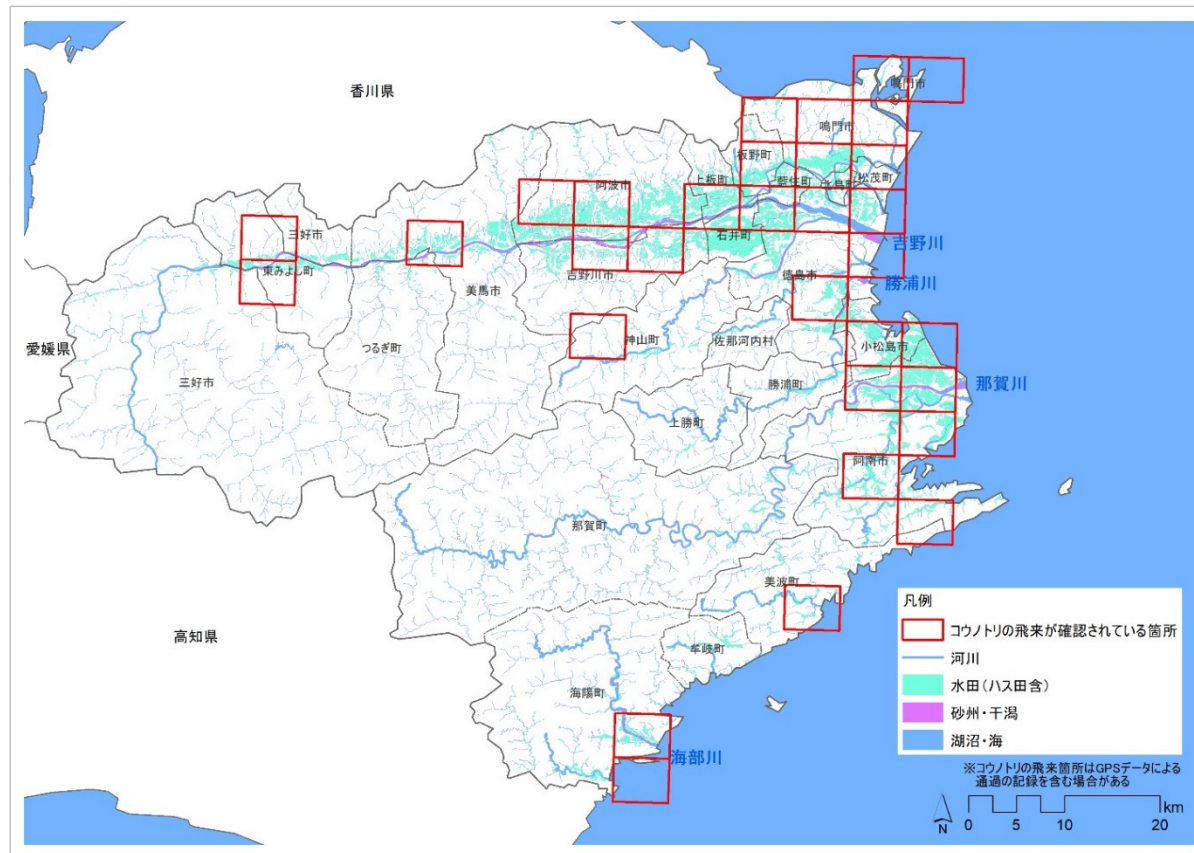
	短期目標 ～2020年	主な取組
生息環境づくり	<p>【コウノトリ】 鳴門市のコウノトリ繁殖ペアの生息環境を改善する取組を進める。また、新たにコウノトリ1ペア以上が流域内に定着（継続的な繁殖・越冬）するための環境整備に着手する。</p> <p>【ツル類】 人による影響が少ないねぐらと、採食場所が保全されたツル類を受け入れる地域がある、ツル類の安全安心な越冬環境を流域内で1箇所以上確保する。</p>	<p>◇鳴門市のコウノトリの営巣地周辺では、農薬や化学肥料を減らしてレンコンが栽培されており、コウノトリ定着推進連絡協議会やとくしまコウノトリ基金により、ビオトープの創出、水田魚道の設置などが進められた。</p> <p>◇鳴門地区生息環境づくりワーキングが設置され、旧吉野川での治水事業と合わせた湿地の再生の検討が進められている。</p> <p>◇コウノトリが造巣した電柱は、感電することを防ぐために、四国電力の協力により電線の架け替え工事が行われた。</p> <p>◇鳴門市のコウノトリの営巣地周辺の490haが、2015年11月に鳥獣保護区に指定された。コウノトリ定着推進連絡協議会や鳴門市によって、観覧マナーの啓発看板の設置、来訪者用の駐車場の確保等が行われた。</p> <p>◇吉野川の河川区域において、ツル類のねぐら環境への立ち入りの配慮を求める啓発看板の設置に向けた検討を進めている。</p>
地域・人づくり	<p>コウノトリ・ツル類の生息を活かした産業振興（農業、観光等）に向け、基盤整備や人材育成等の様々な取組に着手し、東京オリンピック・パラリンピック等でアピールできる地域資源とする。</p> <p>コウノトリ・ツル類の生息環境の保全整備に資する活動や普及啓発イベント、環境学習等に参加する市民・団体・企業等を、年々増加させる。</p> <p>コウノトリ・ツル類の生息と吉野川流域の独自性を一体化する地域づくりの方向性を明確にし、拠点地区での試みの展開を始める。</p>	<p>◇鳴門市が2017年8月から「鳴門市コウノトリブランド認証制度」の運用を開始し、認証された「コウノトリおもてなしれんこん」がJA徳島北により販売されている。</p> <p>◇鳴門地区地域・人づくりワーキングが設置され、コウノトリ・ツル類を活かした観光の検討、ツアーの試行が行われている。</p> <p>◇コウノトリ定着推進連絡協議会やとくしまコウノトリ基金により、コウノトリの飛来情報や関連する取組のウェブサイトでの発信、コウノトリの観察会や普及啓発イベントが行われている。</p> <p>◇コウノトリの普及啓発パネルを作成し、徳島県内外への情報発信を進めている。</p>

徳島県へのコウノトリの飛来・生息状況

徳島県では、2015年頃からコウノトリの飛来が増えています。特に吉野川流域や那賀川・勝浦川流域周辺で、コウノトリの飛来が確認されています。

吉野川流域では、2015年2月に鳴門市へ飛来したコウノトリ2羽が、4月に巣づくりを始めたものの産卵には至りませんでした。2016年は産卵したものの抱卵を放棄してしまいました。2017年に、豊岡市周辺以外では初めて野外繁殖に成功し、3羽が巣立ちました。繁殖に成功した2羽は「鳴門板東ペア」とよばれています。このペアは2018年に2羽、2019年に3羽、2020年に3羽のひなを巣立たせています。また、吉野川流域ではその他に、徳島市、鳴門市、藍住町、松茂町、北島町等への飛来が確認されています。

那賀川・勝浦川流域周辺でもコウノトリの飛来が継続して確認されています。2018年には、「なる」(2017年に「鳴門板東ペア」から巣立ちしたオスの個体)が、6月から7月に渡り、環境保全型農業に取り組んでいる小松島市榑湊町で滞在しました。



徳島県へのコウノトリの飛来・生息確認場所
(2000年1月～2020年12月までの情報を対象に整理)

徳島県へのコウノトリの飛来・生息状況（2020年1月～2020年12月）

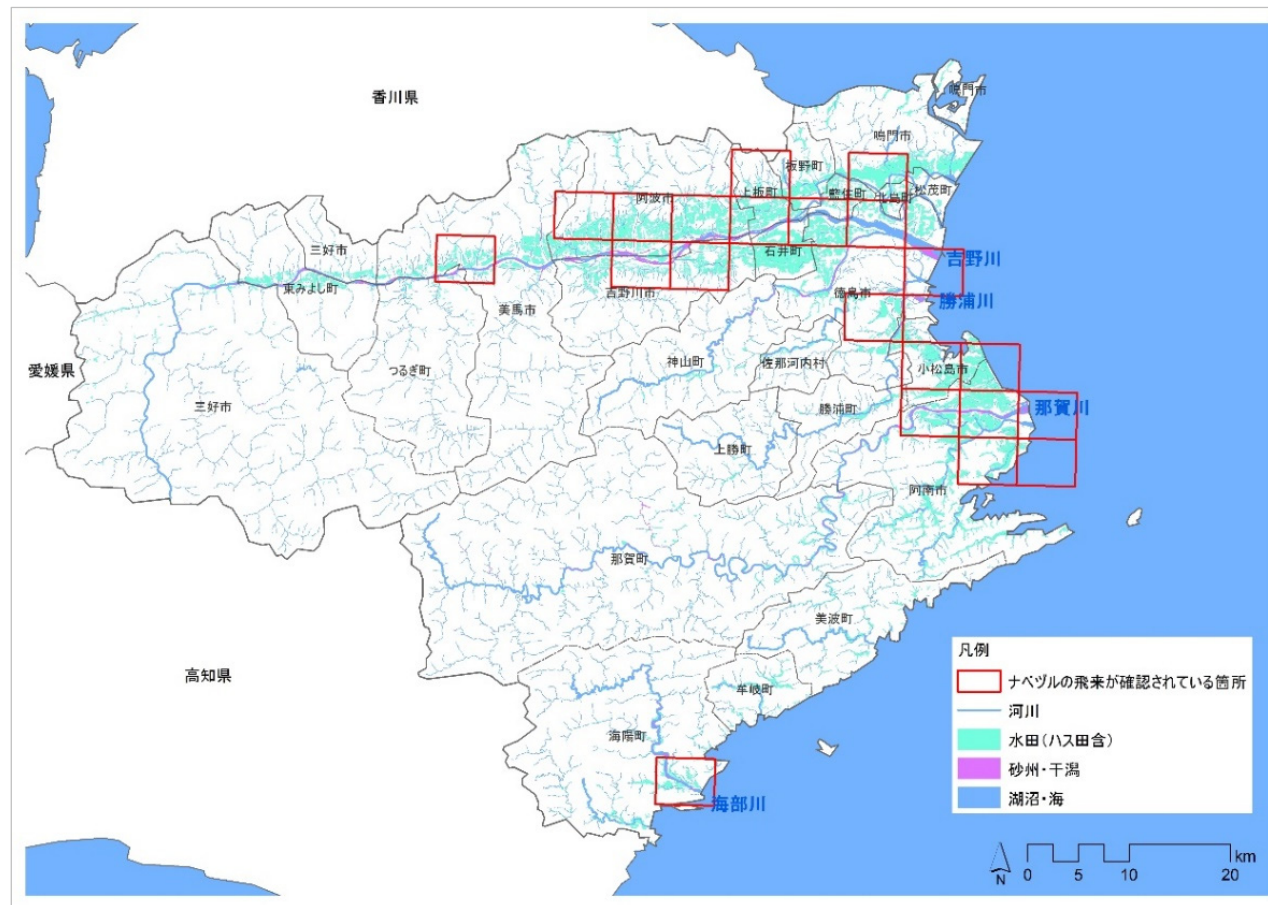
希少種情報につき委員限り

徳島県へのツル類の飛来・生息状況

徳島県では、2010年頃からツル類（主にナベヅル）の確認羽数が増えています。徳島県へ飛来するナベヅルは、主に吉野川、那賀川、海部川の砂州や干潟の浅瀬をねぐらとし、周辺の農地で二番穂等を採食しています。

2015年度の冬には吉野川、那賀川、勝浦川、海部川の流域周辺へ多くのナベヅルが飛来し、吉野川流域では32羽、那賀川流域では34羽のナベヅルの越冬が確認されました。また、2016年度の冬も吉野川流域で32羽のナベヅルの越冬が確認されました。

2017年度以降も吉野川、那賀川、海部川流域に飛来していますが、ねぐら環境が不安定なため、滞在できていません。



徳島県へのツル類の飛来・生息確認場所
(2000年10月～2021年1月までの情報を対象に整理)

徳島県へのツル類の飛来・生息状況（2020年10月～2021年1月）

希少種情報につき委員限り

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

コウノトリ・ツル類が徳島県内に広く飛来しており、また、徳島県全域で環境保全への機運が高まっていることから、徳島県内での関連する情報を共有し、連携を図ることを目的に、「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」を発展移行させ、徳島県全域を対象とした「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」を設立することになりました。

『徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会』

◇開催回数：年1回程度 ◇構成：学識者／市町長／行政／関係団体等 計30名程度

◇主な役割：全体構想の策定、取組に関する情報の共有

【事務局：徳島河川国道事務所、那賀川河川事務所、徳島県】

『専門部会』

◇開催頻度：必要に応じて開催

◇構成：分野別専門家 5名程度

◇主な役割：地域ワーキングの具体的な取組の検討、実施に際して、専門的知見から助言

生息環境づくり部会

徳島県におけるコウノトリ・ツル類の
定着・繁殖に関すること

地域・人づくり部会

徳島県におけるコウノトリ・ツル類が
舞う魅力的な地域づくりや人材養成
に関すること

支援

『地域ワーキング』

事業の実施にあたって、地域の関係主体
が参加して具体的な取組を検討、推進

鳴門地区地域ワーキング

「鳴門地区生息環境づくりワーキング」
「鳴門地区地域・人づくりワーキング」

【事務局：徳島河川国道事務所】

〇〇地区地域ワーキング

状況に応じ、適宜設置

【事務局：〇〇〇〇】

〇〇地区地域ワーキング

状況に応じ、適宜設置

【事務局：〇〇〇〇】